

金井度量衡株式会社 代表取締役 金井 利郎 氏

高度な技術と付加価値で社会に貢献。 「はかる」の未来価値を創造する



最新 運搬用ドローン

PROFILE

1965年生まれ、長岡市出身。気象予報士。東京理科大学大学院 理工学研究科 土木工学専攻 修士。1990年金井度量衡入社。2003年代表取締役就任。得意なコンピュータ技術を活かし建設現場&社内のIT化を推進。2012年よりドローンの事業化に着手、航空写真測量、レーザ測量分野のドローン社会実装の先駆けとなる。新潟商工会議所では企業経営委員会で委員を務める。

●その他、主な役職
(公社)新潟法人会 副会長、(一社)日本ドローンコンソーシアム 理事 他多数

創業143年の金井度量衡は、はかりの製造販売をルーツとし、「はかる」技術の進化とともに提供する製品やサービスを変革してきた企業。「はかる未来価値創造コンサルタント」を掲げ、建設・測量分野、気象分野などのソリューションに取り組む金井社長に、お話を伺いました。



金井度量衡株式会社
〒950-0971
新潟市中央区近江1-1-3
TEL : 025-283-8800
<https://www.kanai.co.jp>



ドローン事業で一つの大きな流れを創ることができた。

今後もお客様のソリューションの創出を応援したいと思っています

ドローンにいち早く着目し事業化。 測量・建設分野のイノベーションに

金井度量衡は1882年の創業以来、時代の要求に即した「はかる」商品・サービスを提供する会社である。近年はGPSやレーザースキャナ、ドローン等による三次元計測のICT技術を駆使し、その効果的な活用方法を建設業界を中心に提案するコンサルタント業務に力を入れている。

同社はまだ実用化が進んでいなかったドローンに早くから着目するが、そのきっかけについては「お客様にこの先どのようなイノベーションを提供できるのかを模索していたときに、千葉大学が撮影した東日本大震災のドローン映像を見て、何かできるのではと直感しました」と金井社長。そこで2012年に大学や研究機関、企業によるドローンコンソーシアムを発足。活動を続けていく中で「建設分野でのドローン活用が全国の中小企業に広がれば大変革になる」と考え、ドローン事業を開始する。さらに、3次元レーザースキャナを搭載した高度なドローン測量にいち早く着手したことで、大手測量会社からの引き合いが増加。2017年には国交省登録のドローンスクールを開講し、事業者を対象に操縦者育成やデータ解析の指導を行うなどトータルな支援を行っている。

人材育成と資格取得で 付加価値の構築を図る

常に先進的な技術に挑戦している同社だが、「我々の強みは高度な計測技術に、当社だからできるノウハウを付加価値としてのせること。この一点だけはぶれません」と金井社長。その付加価値



2019年8月BSN夏休み親子ドローンプログラミング教室。事業者向けの人材育成だけでなく、ロボティクス時代の子供たちへの教育活動も実施している。

値を構築するため、人材育成には力を入れている。現在、社員の半数が測量士補を保有。その他に測量士、1級/2級土木施工管理技士、2級電気通信施工管理技士、第2種/3種陸上特殊無線技士、ドローン操縦資格者等が在籍しており、各種学会や業界団体の活動にも積極的に参画しているとのこと。「仕事の内容を深く理解した上でお客様に提案できることが大切。ただ商品売るのではなく、技術に付加価値を付けることがお客様と当社がともに生き残り、地域を活性化する道だと思っています」。

建設インフラの老朽化に寄与。 「新しいはかる」を追求。

新潟商工会議所の企業経営委員を務めていることで、「経営者をはじめ税理士など士業の方々と一緒に勉強できる場があるのはありがたいです」と金井社長。さらに、地域の経営者たちとの活動を通して「自社の経営だけでなく、他の業界や新潟全体が潤うためにはどうすればいいか、広い視野で見ることを学んでいます」と話す。

「近年は社会の土台である建設インフラが老朽化しているので、当社の“はかる”イノベーションでお手伝いしていきたい。また、他のさまざまな業界に役立つ新たなサービスを提供できればと考えています」。これからも新しい「はかる」未来価値を追求しながら、常に変革する企業として歩みを進めてゆく。



ドローンによる写真測量データと赤外線情報の画像。2D写真を3Dにするだけでなく、赤外線情報も付与することで調査対象のさまざまな状況が明らかになる。